

宮澤賢治の夢

森野 水琴

「宮澤賢治のような哲学する童話や小説を書きたい」というのが彼の友の口癖だった。

その友が天に召された。

どうすれば友の遺志を継げるだろうか。

途方に暮れた彼は図書館で宮澤賢治のコーナーから一冊の本を見つけた。

相川良彦著の『賢治の見た夢』 日本経済評論社

運命の出会いである。

天上で友は宮澤賢治に逢っているだろうか。

何を話しているだろうか。哲学談義だろうか。

それを想像する手がかりになりそうな本である。

文学は死者との対話だと聞いたことがある

宮澤賢治も友も天に召された

今 新たな文学が始まる